

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36235
事業名	家庭の生ごみ減量・リサイクル推進費					
評価担当課	所属名	環)環境事業部 循環型社会推進				
	課長名	岡本俊幸	担当者名	丸岡ななみ・相馬洋	電話番号	011-211-2928
施策名	主	循環型社会の構築				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他				
	目的	短期	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯割合の拡大(令和4年度までに95%) ・家庭から出る生ごみの減量(令和9年度までに平成28年度比1.0万t以上減量) ・器材助成者の生ごみ堆肥化継続率(令和4年度までに90%) 			
		長期	各家庭から排出される生ごみの減量			
	取組内容	各家庭から排出される生ごみ減量のため以下の取組を行う。 ①生ごみ堆肥化セミナーの開催 ②生ごみ堆肥化相談窓口の開設 ③電動生ごみ処理機購入助成 ④生ごみ堆肥化器材購入助成				
	実施結果	【生ごみ堆肥化相談窓口】相談件数:237件 【生ごみ堆肥化セミナー・生ごみ堆肥化講師派遣】実施回数:29回、参加人数:491人 【電動生ごみ処理機購入助成】:助成台数361台 【生ごみ堆肥化基材等購入助成】:助成台数461台				
事業実施における工夫点	生ごみ堆肥化器材購入助成制度について、市民サービス向上のためコールセンターの電話受付を活用し、さらにホームページからの申込を可能としているほか、電動生ごみ処理機については、市外販売店、通信販売店による購入も可としている。					
対象者	市民	開始	平成23年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	電動生ごみ処理機購入助成金交付要綱、札幌市生ごみ堆肥化器材等購入助成金交付要綱、食品ロスの削減の推進に関する法律					
他都市の状況	他政令市9市においても生ごみ堆肥化機材の助成を実施している。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	14,654	17,000	14,429	18,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	1.5	1.5	1.5	1.5	
人件費	10,800	10,800	10,800	10,800	
計(事業費+人件費)	25,454	27,800	25,229	28,800	
事業費の内訳	令和3年度決算	生ごみ堆肥化セミナー及び相談窓口の開設:8,073千円 電動生ごみ処理機購入助成:5,367千円 生ごみ堆肥化基材購入助成:879千円 その他:111千円			
	令和4年度予算	生ごみ堆肥化セミナー及び相談窓口の開設:9,460千円 電動生ごみ処理機購入助成:6,100千円 生ごみ堆肥化基材購入助成:1,120千円 生ごみ減量・資源化に関する関心度・実践度等調査の実施:1,000千円 その他:320千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	器材助成者の生ごみ堆肥化継続率		
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		95.70%	90%	94.30%	90%
活動指標2		指標名	生ごみ堆肥化セミナーの参加人数		
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		782人	580人	491人	700人
成果指標1		指標名	生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合		
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
		93.10%	90%	93.00%	90%
成果指標2		指標名	生ごみの堆肥化に取り組む世帯の割合		
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
		8.40%	-	8.40%	8.40%
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	生ごみ堆肥化セミナーに加え、10名以上の団体に講師を派遣する「生ごみ堆肥化講師派遣」を実施し491人の参加があった(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、セミナーの定員を会場定員の半分に減らして実施)。講座を受講した市民の満足度は高いが、新型コロナウイルス感染症による講座の中止もあり、前年度よりも参加者数が減少した。生ごみ堆肥化器材購入助成については、前年度に引き続き多くの申し込みがあり、また、利用者の94.3%が生ごみ堆肥化を継続している。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	生ごみ堆肥化セミナーは、生ごみ堆肥化の作り方と併せて堆肥の活用方法を教える「家庭菜園講座」を実施し、堆肥化の方法については、ダンボールを使った堆肥化講座だけではなく、コンポスターと密閉式容器に特化した講座も実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集定員を会場定員の半数以下としていることから参加人数が減少しており、会場や開催方法の見直しが必要である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	生ごみ堆肥化セミナー及び生ごみ堆肥化相談窓口は、専門的な知識が必要なことから、業務委託により実施している。生ごみ堆肥化器材購入助成はコールセンターを受付窓口とすることにより、市民の利便性向上とともに、事務の効率化も図られている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	生ごみ堆肥化セミナー参加者アンケートにおいて、8割以上の参加者が講座内容に満足していると回答していることから、市民ニーズにしていると考えている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ堆肥化セミナー:参加者のうち約7割が60代以上であるが、さらに家庭での堆肥化を進めていくためには、戸建住宅に切り替わってくる40代~50代世代の参加者も増加させる必要があると考える。また、新型コロナの影響で参加人数が減少していることから、新たな開催手法の検討が必要と考える。 ・電動生ごみ処理機:助成件数は増加傾向にあり、令和元年以降は募集台数を上回る申込が続いている一方で生ごみ堆肥化器材に比べ助成者の継続率が低いことが課題と考える。 ・集合住宅の居住者など堆肥化が難しい世帯において、生ごみ減量の実践が進んでいない。 				
前回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	生ごみ堆肥化セミナーについて、コロナの状況に関わらず、また、忙しい中でも手軽に参加できるように対面での講座に加えオンラインでの講座も行い、50代以下を中心に新規参加者増加を図っている。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	器材助成者の生ごみ堆肥化継続率、生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯の割合は高い水準を維持しているが、生ごみ堆肥化セミナーについて、新型コロナウイルス感染症対策で募集定員を会場定員の半数以下としたことにより参加者数が減少していることから、開催方法等を見直す必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 生ごみ堆肥化セミナーについて、60代以上の参加者が約7割であることから、対面での講座に加えてオンラインの講座も行い、主に20~40代世帯の参加者増加を図る。また、水切りの徹底など、生ごみ堆肥化以外の手軽に行えるごみ減量の取り組みを検討し、周知していく。			
	予算	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他 現在の予算内でセミナー実施内容の改善を図る。		見直し効果額	0